

親子が乳しぼりやアイスづくりを体験

畜産センターでは、毎年夏休みの期間中に、親子で畜産に親しむ「夏休み親子畜産ふれあい広場」を開催しています。今年は8月8日（水）に開催し、21組64名が参加しました。午前は乳しぼりや子牛・鶏の聴診、子牛のほ乳体験、午後はひよこがふ化する様子の観察、牛乳パックや卵の殻を利用した工作、アイスクリームづくりに挑戦しました。

特に乳しぼりやほ乳体験は人気で、「牛のお乳が温かかった」「指を吸われてすごかった」「牛乳の大切さがわかった」などの感想が聞かれました。

今後も府民が畜産への理解を深める取り組みを進めていきます。



乳しぼりを体験



鶏の心音「聴えた！」



「牛のあかちゃんカワイイ！」



牛乳パックで帽子作り



「ひよこ生まれるかなあ」



牛乳や卵を使って手作りアイスに挑戦

畜産センター

農場のネズミ防除対策の伝達・実践

当センターで開発したネズミ防除対策技術の伝達を目的に、8月16日、家畜保健衛生所職員を対象に研修会を開催しました。ネズミの生態や行動、府内大型農場でのセンサーカメラを用いた侵入経路調査手法と結果を報告し、鶏舎構造の違いによる侵入経路とそれに合わせた対策方法を実例を示しながら説明しました。

また、8月22日には府内の大型養鶏場に対しセンサーカメラの調査結果をもとに鶏舎構造に応じたネズミ侵入防止対策について具体的な指導を行いました。

農場管理者は、「センサーカメラの映像によりネズミの侵入場所と方法が特定さ

れ、対策が取りやすくなった」「鳥インフルエンザシーズンまでに対策を完了させたい」と実践に意欲的でした。

当センターも家畜保健衛生所と連携しながら、農場とともに具体的な侵入防止対策に取り組みます。



家畜保健衛生所職員を対象とした研修会



実例を示しながら防除の手法を説明

畜産センター

府内各地で稲発酵粗飼料（稲WCS）の収穫・調製始まる

京都府では、耕種農家が栽培した飼料用稲を収穫・調製し、稲WCS^{※1}として畜産農家が牛に与える耕畜連携を進めています。畜産農家から稲WCSの発酵品質や粗蛋白質含量の向上を望む声が多いことから、当センターはタスクチーム活動^{※2}として、府内各地のモデルほ場（6か所）で飼料用稲の適期収穫技術の実証を行っています。

8月6日から早生品種の収穫が始まり、晩生品種の収穫期である10月上旬まで続きますが、今年は稲の生育も良く、多収が見込めます。また、乳熟期から黄熟期の間の刈り取り指導を徹底しており畜産農家が求める品質の稲WCSとなりことが期待できます。

今後は、調製した稲WCSの栄養価を

分析し、畜産農家に高品質な稲WCSを多く供給できるようタスク活動を進めます。

※1 稲WCS：未成熟な稲の子実と茎葉を同時に収穫、密封し乳酸発酵させた牛用の飼料

※2 タスクチーム活動：研究機関と普及組織が一体となり、研究成果を現地で速やかに定着させる活動



コンバイン型ロールベ
ラで収穫・梱包



ラッピングマシンで密封
1個当たり300kg直径100cm

畜産センター

高校生が熱心に牛を審査

畜産への理解を深め、農業の担い手としての意欲を高めることを目的に府内農業系の高校で構成する京都府学校農業クラブ連盟主催による牛の審査講習及び審査競技会が、毎年夏休み期間中に当場で開催されています。本年度は8月2日に和牛部門が開催され、職員が講師を務めました。

府内3校から参加した27人の生徒は、熱心に牛の体型の審査競技に取り組み、今回最も優秀な成績を収めた農芸高校3年生が、10月に鹿児島県で開催される和牛審査競技会全国大会に京都府代表とし

て出場することになりました。

今後も当场と教育機関が連携した取組を通じて、将来畜産に従事する人づくりに貢献していきます。



熱心に牛を審査する高校生たち

畜産センター礎高原牧場